

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 7 巻第 14 号

第 14 週( 4月 2日 ~ 4月 8日)

発行年月日:平成19年(2007年) 4月12日

発行:滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

### 今週の感染症発生動向

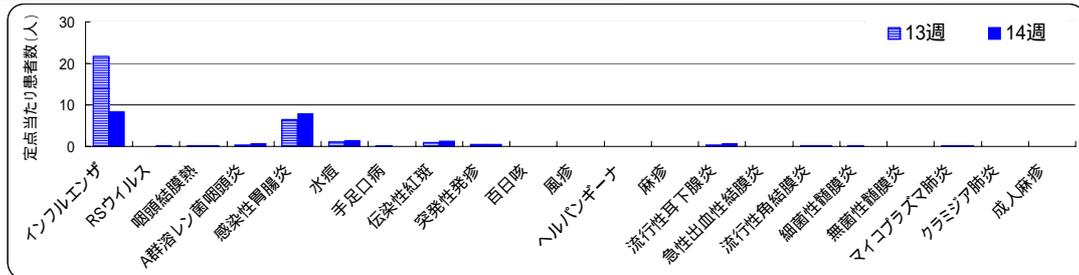
#### インフルエンザの発生は、先週に引き続き減少!

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、平成19年第13週(3月26日~4月1日)の報告数よりさらに減少し、特に、インフルエンザで急減しています。先週より増加した疾患は感染性胃腸炎、伝染性紅斑(リンゴ病)等で、減少した疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

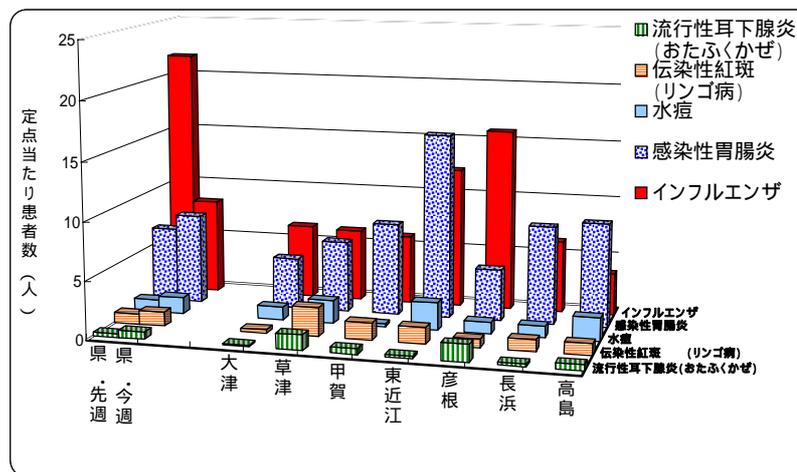
「感染症発生動向調査に基づく感染症の警報・注意報システム」によるとインフルエンザおよび伝染性紅斑に警報が発生しています。

全数把握対象疾患では、二類感染症の結核 2名および三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症 1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の発生状況(定点把握対象五類感染症、第14週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおり、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、伝染性紅斑(リンゴ病)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の順に多くなっています。

インフルエンザは先週に引き続き大幅に減少していますが、東近江および彦根で多くなっています。また、感染性胃腸炎は東近江で多くなっています。

#### 感染症のミニ知識 ~ 伝染性紅斑(リンゴ病) ~

ヒトパルボウイルスB19型に感染することにより起こる疾患で、幼少児(2~12歳)に多く発生します。頬に発しんが現れる7~10日くらい前に微熱や感冒様症状などの前駆症状がみられ、この時期にウイルスの排泄量が最も多くなっており感染しやすくなります。

- ・感染様式: 飛沫感染、接触感染
- ・潜伏期: 4~20日
- ・臨床症状: 両ほほに紅い蝶翼状の発疹(リンゴのほほ)が現れ、1~2日後に腕の外側や太ももに網目状の発疹が現れます。
- ・治療: 特別な治療法はありません(自然に回復します)。
- ・予防: 妊婦が感染すると流産することもあるので、流行時にはカゼ様患者に近づかないよにすることが大事です。
- ・登校、登園のめやす: 発疹が現れた時には、感染力はほとんどなくなっています。

## 警報・注意報発生状況

### インフルエンザの警報・注意報発生状況(平成19年第6～14週)

週	滋賀県	大津保健所	草津保健所	甲賀保健所	東近江保健所	彦根保健所	長浜保健所	高島保健所
	定点当たり患者数							
6週	12.58	16.00	12.90	13.43	8.00	12.14	12.00	11.67
7週	14.91	17.64	13.00	18.14	12.13	14.00	11.00	22.33
8週	23.60	21.00	30.40	30.71	20.50	25.14	12.43	24.67
9週	28.04	34.91	29.70	27.00	25.13	23.14	19.57	38.67
10週	29.28	35.91	27.60	31.43	25.50	40.00	13.71	27.00
11週	32.60	35.64	40.30	36.29	37.57	31.00	17.29	15.00
12週	38.50	43.73	42.10	36.86	47.86	44.00	22.00	15.00
13週	21.72	21.64	19.50	23.57	31.13	25.86	13.29	10.00
14週	8.30	6.45	6.30	6.00	12.25	15.86	6.29	3.67

■ 警報発生中      ■ 注意報発生中      警報発生基準値：定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出され、それ以降、定点当たり患者数が10人未満になるまで継続して出されます。  
 注意報発生基準値：定点当たり患者数が10人以上という基準値を超えた時に出されます。

### 伝染性紅斑(リンゴ病)の警報発生状況(平成19年第13～14週)

週	滋賀県	大津保健所	草津保健所	甲賀保健所	東近江保健所	彦根保健所	長浜保健所	高島保健所
	定点当たり患者数							
13週	0.91	0.43	0.67	2.25	0.80	1.25	0.50	1.00
14週	1.22	0.29	2.50	1.50	1.40	0.75	1.00	1.00

■ 警報発生中      警報発生基準値：定点当たり患者数が2人以上という基準値を超えた時に出され、それ以降、定点当たり患者数が1人未満になるまで継続して出されます。

### <<感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム>>

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに警報レベルおよび注意報レベルの基準値を設定しています。その基準値を超えた時に流行発生警報あるいは流行発生注意報という表現により流行状況の指標を示しているもので、都道府県として発令される「警報」、「注意報」とは異なります。

#### 流行発生警報

**流行発生警報**という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

#### 流行発生注意報

**流行発生注意報**という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

\* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照  
<http://idsc.nih.gov.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide06.html>

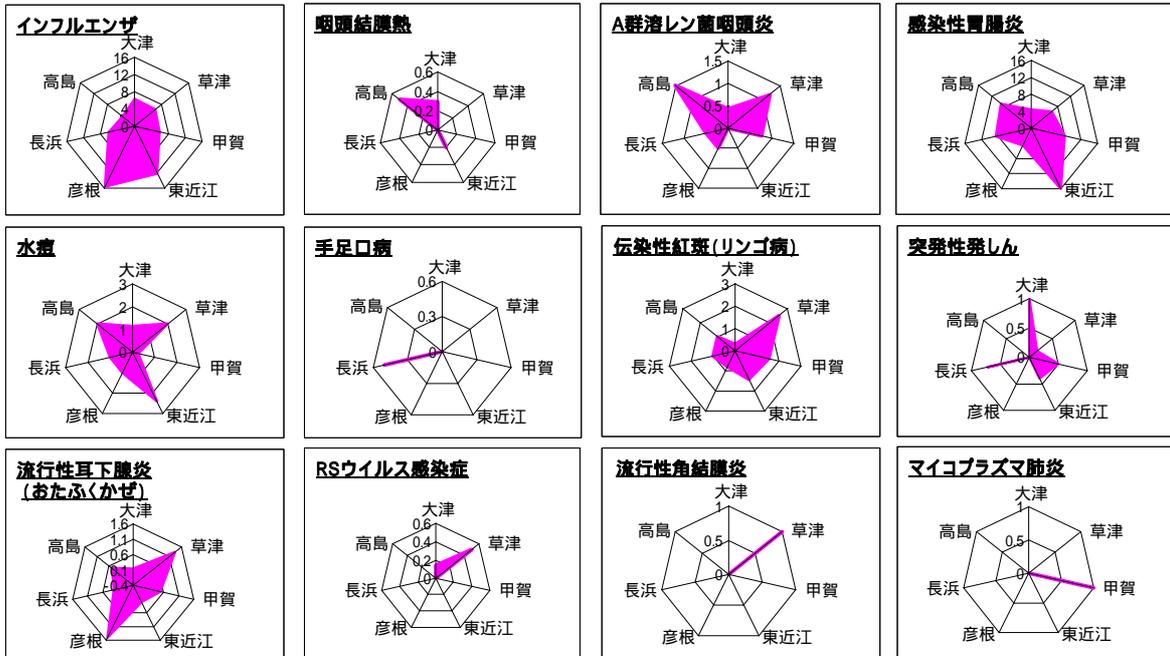


(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第14週, 4/2~4/8)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	8.30	6.45	6.30	6.00	12.25	15.86	6.29	3.67	
RSウイルス感染症	0.13	0.14	0.50	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.13	0.29	0	0	0.20	0	0	0.50	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	0.43	1.17	0.75	0	0.50	0.50	1.50	
感染性胃腸炎	7.81	4.43	6.17	8.00	16.00	4.50	8.50	9.00	
水痘	1.41	1.14	2.00	0.25	2.40	1.00	1.00	2.00	
手足口病	0.06	0	0	0	0	0	0	0.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	1.22	0.29	2.50	1.50	1.40	0.75	1.00	1.00	
突発性発しん	0.47	1.00	0.17	0.50	0.40	0	0.75	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.63	0.14	1.33	0.50	0.20	1.50	0.25	0.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	1.00	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加    
 ■ は警報発生中    
 ■ は注意報発生中    
 0 2 4 6 8 10    
 定点当たり患者数(人)

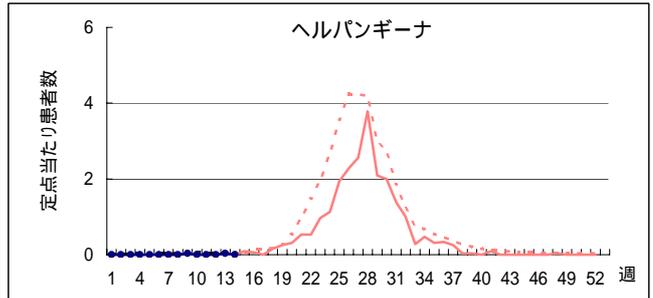
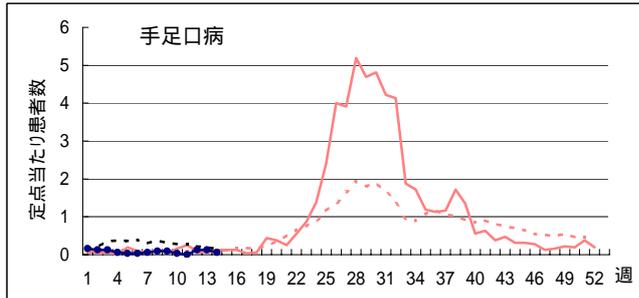
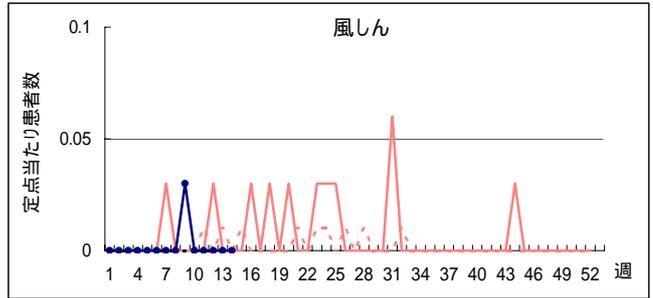
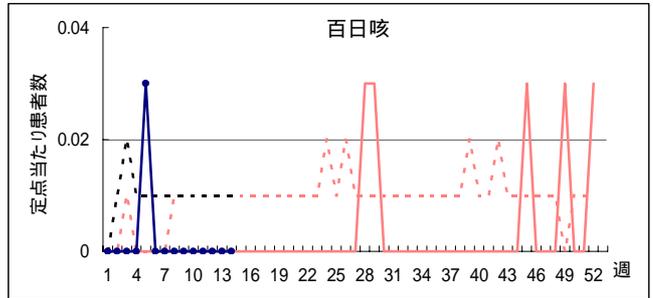
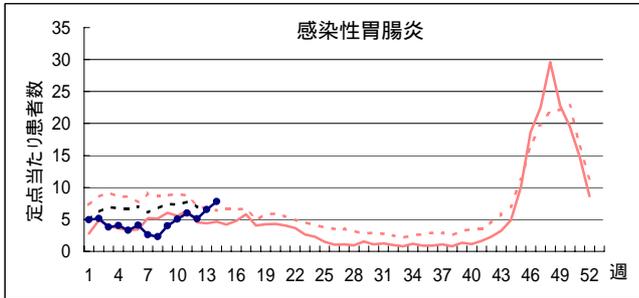
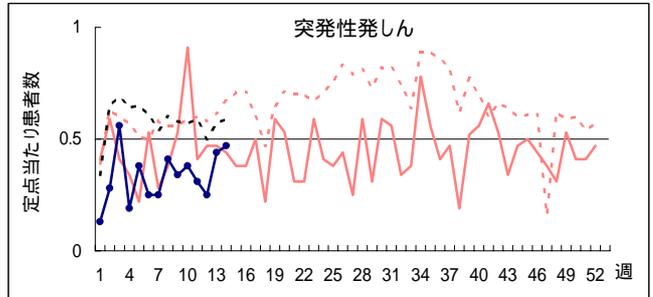
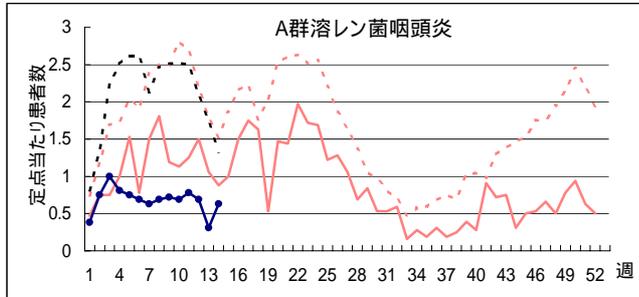
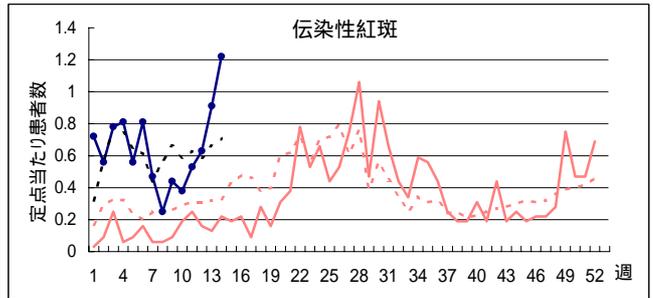
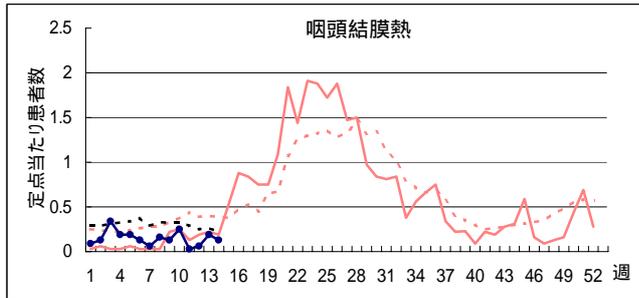
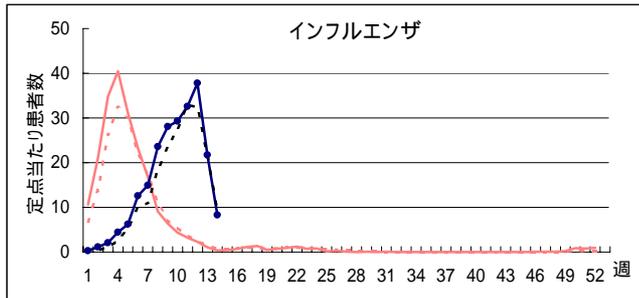
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

- インフルエンザ----- 県全体の定点当たり患者数は先週(21.72)よりさらに減少し8.30となっており、東近江および彦根ではやや多い状態が続いています。今後も手洗い、うがい等の予防を心がけることが大切です。
- A群溶レン菌咽頭炎---- 草津、甲賀および高島でやや多くなっています。
- 感染性胃腸炎----- 県全体では先週より減少していますが、東近江および長浜では先週より増加しているため、今後の発生状況に注意が必要です。
- 伝染性紅斑----- 草津で急増し、定点当たり患者数は2.50となり警報開始基準値(2.00)を超えました。草津および甲賀で警報が出されています。また、県全体の年齢別発生状況は1~4歳で33.3%、5~9歳で66.6%となり5~9歳に多く発生しています。
- 流行性耳下腺炎----- 草津および彦根で先週よりかなり多くなっています。
- RSウイルス感染症----- 大津および草津からの報告があり、県全体としては微増傾向となっています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成19年第1週～第14週、H19.1.1～H19.4.8)



# 疾病別定点当たり患者数(平成19年第1週～第14週、H19.1.1～H19.4.8)

H18 〔 滋賀 ————  
 全国 - - - - -

H19 〔 滋賀 ●—●—●—  
 全国 - - - - -

